

学校点描

インフルエンザが拡大しつつあるため11月1日から2日間学校閉鎖をしました。7日から2年生が無事東京にて修学旅行を行いました。

《M中学校》

NO.13

R5. 11. 15

担当：校長

11月3日（金）に、宮城県利府町のグランディ21 セキスイハイムスーパーアリーナを会場に第52回マーチングバンド・バトントワーリング東北大会が開催され、吹奏楽部のマーチングは銀賞に輝きました。素晴らしい演奏演技ありがとうございました。

11月11日（土）に、県新人大会決勝大会が行われ、サッカー部が第3位に、柔道個人のT・Yさんが90kg超級で第3位に入賞しました。

第75回M上学童展では、平面の部（図画・デザイン・版画）で、K・Hさん、T・Kさん、A・Sさん、O・Rさんが奨励賞に、T・Mさん、K・Tさん、S・Hさん、S・Hさん、N・Tさんが佳作に選ばれました。

11月11日（土）、12日（日）に第4回ボクシング全日本フレッシュ選考会東北大会が宮城県仙台市で開催され、K・Sさんが45kg級で見事優勝しました。3月岡山県で開催の全国大会に出場します。

卒業してから出会う人生の転機にて

学校閉鎖で誰もいない校舎を巡回しています。3階の学習センターの前を通ると、前号で紹介した『さかなのなみだ』が、地域コーディネーターで図書館業務をされているOさんと、Kさんの手で、工夫を凝らして展示されています。発信したことに対して、すぐに反応してくれる方々がいる職場は、本当にありがたいものです。

学習センター迎いの集会室を見ると集会室を仕切る壁に、3年生の国語で作ったのか、
「図書室に眠る良書を、
流行の本にしよう！」と
貼り紙が張ってあります。

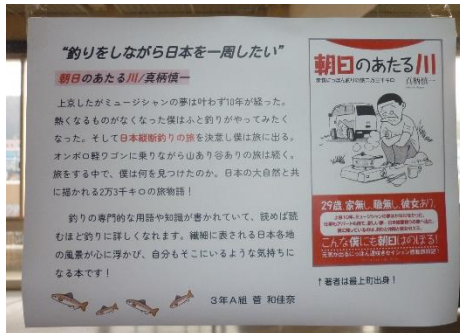
たくさんの3年生が本の紹介を写真や絵入りで、自分が選んだ本の内容を上手にまとめて印字したものを窓いっぱいには掛けていました。1枚1枚丁寧に読んでいきます。人の個性といっしょに、生徒ひとりの紹介する本は多様で満ちあふれています。

その中に、K・Wさんが紹介した本を見つけました。

今号は、この本について、私もお話させていただきます。



その本の著者は最上中学校の卒業生でわたしが勤務していた時の教え子です。中学時代の著者は、「俺はミュージシャンになるんだ」といつも言っていました。家ではギターをジャカジャカ



練習していましたね。音楽以外にも好きなことにとことん熱中できるのがその子の良さでした。あれからどれくらい経ったのか、ある日、書店で著者である教え子の本を手にしました。

『朝日のあたる川—赤貧につぼん釣りの旅二万三千キロ』(フライの雑誌社新書)。実は、上京して10年、ミュージシャンの夢がかなわなかった教え子でした。

その著者は仕事もアパートも捨てました。しかしそこで、自分が昔、この最上町で暮らしていた頃熱中していたあることを思い出したのです。実は、最上町の少年時代にギターよりも先に、川釣りに熱中していたことを。そして著者は、東京で夢が破れ挫折したことを境に、日本縦断釣りの旅を始めます。実際に体験したドキュメンタリー本です。中古の軽ワゴンをお金を工面して、その車の中で生活しながら、日本全国の川に行っては、毛針(フライフィッシング)で魚を釣ります。そして、そこで出会った多くの人々から、釣りのこと、人生のこと、社会のことをたくさん学び、自分の人生を変えていった話です。



「こんな僕にも朝日がのぼる!」と最後にこう綴ります。K・Wさんが紹介したこの本を久しぶりに手にしながら考えます。人の生き方(キャリア)は計画通りには行かないけれど、偶然がそこに加わり、それが転機となって人生は広がっていくものだ。と。“人生を描くのは他人ではない、自分なんだ”と。人生は、転機の連続です。その転機が起きたときに、自分がどう動くかが人生を決めていきます。

今回は、本校を巣立った後、いろいろ苦労しながらも人生を自分の手で切り開いている卒業生たちの一人の話です。人生は、中学校を卒業してから、荒野を切り拓いていくようなものです。

「後輩達よ、自分の手で切り拓くんだぞ。」彼が、そう語っているように思います。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。